

植樹式 2012



時の蘇生・柿の木プロジェクト

3月3日		伊那谷道中かぶちゃん村（現在は閉鎖） 日本・長野県・飯田市	1
3月4日		須坂市高甫地域6地区 日本・長野県・須坂市	2
3月30日		ベックウェイハウス 日本・東京都・あきる野市	3
4月13日		ジェロラモ・カルダノ高校 イタリア・ミラノ県・ミラノ市	4
4月14日		サンジョバニ公園 トリエステ県・トリエステ市	5
4月16日		ソーニコ幼稚園 イタリア・ブレシア県・ソーニコ市	6
4月17日		ロンカデッレ市内の緑地 イタリア・ブレシア県・ロンカデッレ市	7
4月18日		ガヴァルド総合学校 ソプラポンテの小学校 イタリア・ブレシア県・ガヴァルド市	8
4月18日		ガヴァルド総合学校 ガヴァルドの中学校 イタリア・ブレシア県・ガヴァルド市	9
4月19日		ヴィツラヌオーヴァ・スル・クリージ市内小学校 イタリア・ブレシア県・ヴァリオテルメ市	10
4月19日		コストリオ市内小学校 イタリア・ブレシア県・ピラ・カルチナ市	11
4月20日		プラザマーケット イタリア・ブレシア県・オーメ市	12
4月20日		M. カリーニ小学校 イタリア・ブレシア県・ブレシア市	13
4月21日		サンジローラモファームハウス イタリア・マントヴァ県・マントヴァ市	14
4月23日		タヴァルヌツェ平和の家 イタリア・フィレンツェ県・タヴァルヌツェ市	15
4月24日		ヴァレ・デイトリア植物園 イタリア・プリンディジ県・チステルニーノ市	16
4月26日		ミラベッラ・インバッカリの小学校 イタリア・カターニア県・ミラベッラ・インバッカリ市	17
6月9日		「カブール平和と希望の庭」カブール国立美術館 アフガニスタン・カブール	18

伊那谷道中かぶちゃん村（現在は閉鎖）

🇯🇵 日本

📍 長野県・飯田市

🌱 2012年3月3日

かぶちゃん農園を経営する鏑木武弥社長は、柿の木プロジェクトに興味を持って下さり、2009年ロンドン出張の折に、フィンズベリー公園の柿の木を見に行きました。その後、長野県須坂市の高甫小学校、台東区の柳北公園の柿の木も見て回り、自社広報誌に柿の木プロジェクトの紹介記事を掲載、フォトラリーをWEB上で展開、地元のイベントブースで里親募集のチラシの配布など、柿の木プロジェクトを継続的に応援して下さいました。

2011年にかぶちゃん農園の植樹を希望され、申し込書を送って来てくれましたが、東日本大震災の影響もあり、その年の植樹は断念、2012年の植樹となりました。

植樹場所は、当初予定されていたかぶちゃん農園本社から、車で20分ほどいった『南信州かぶちゃん村』に変更となりました。

植樹式には、かぶちゃん村に来ていた小学校1-2年生約30名、かぶちゃん農園のスタッフの子どもたちが参加しました。鏑木社長、宮島達男、海老沼正幸先生と挨拶があり、かぶちゃん村のスタッフによる柿の木紙芝居が披露された後、柿の木神社に植樹されました。

植樹では、鏑木社長、海老沼先生、宮島達男が3本の柿の木前にそれぞれ立ち、子どもたちにグーチョキパーを出させて、それぞれのグーチョキパーを出した先生のところに振り分けられ、3か所同時に植樹されました。



高甫地域 6 地区

🇯🇵 日本

📍 長野県・須坂市

🌱 2012年3月4日

野辺地区、村石町地区、上八町地区、下八町地区、望岳台地区、妙徳地区

信濃毎日新聞で柿の木プロジェクトのことを知った荒井清治さんが、植樹を申し込み、2001年3月1日に須坂市立高甫小学校での植樹が実現しました。2001年の植樹以来、高甫地域づくり推進委員会の方々は、高甫地域公民館を中心に、高甫小学校の2本の柿の木をずっと見守っていて下さり、柿の木に実がなるようになってからは、柿の皮むき大会を小学校で実施するなど、地域の方々が中心になって、被爆柿の木2世のことを子どもたちに伝えてきました。また高甫小学校の児童の代表3名が2011年8月に長崎の原爆平和式典に参加するなど、子どもたちへの平和教育も地道に続けてきています。

2011年10月に開催された柿の皮むき大会に海老沼先生が参加された時、今回の6地区での植樹の話がありました。

植樹式前日の3月3日には、4地区で植樹を先がけて実施、3月4日の午前9時から、実施された野辺町地区、版画美術館前の植樹式では、紅白の幕に囲まれ、三木正夫須坂市長をはじめ、高甫地域公民館の一色修治館長、高甫地域づくり推進委員の中澤啓明さん、高甫小学校の堀込校長先生、六地区の区長さんたちが集いました。2011年8月に長崎へ行った児童3名を含む高甫



小学校の子どもたち20名も参加していました。主催者の挨拶の後、柿の木が植樹され、その後、主賓の挨拶がありました。植樹後すぐに柿の苗木に藁をまきつけて寒さ対策をしてくれました。ここ高甫地域はフルーツの里、植物への愛情が感じられました。

また、その後移動し、午前10時から、村石町地区の村石公民館で、植樹式が開催されました。村石町の区長 青木進さんの挨拶に続き、海老沼先生、宮島達男から挨拶がありました。柿の木の植樹の後、地元の有志によるオカリナ、ギターの演奏があり、高甫小学校の児童10名ほどを含む総勢50名で、「ふるさと」の合唱をしました。

高甫地域づくり推進委員の方たちが本当に大切に地域づくりをしている姿にとっても心うたれるものがありました。

ベックウェイハウス

🇯🇵 日本

📍 東京都・あきる野市

🌱 2012年3月30日



ベックウェイハウスは学校法人グリーンヒル幼稚園と秋川文化幼稚園を運営している池谷善郎氏が個人的に所有しているキャンプ施設で、幼稚園生とその保護者、その知人が利用できる施設です。宿泊施設、バーベキューコンロ、ピザ釜などもあり、下を流れる川で魚釣りを楽しむこともできます。

今回の植樹は、グリーンヒル幼稚園と秋川文化幼稚園で園児たちに美術を教えている矢野真一先生から申し込みがありました。矢野先生は、2005年5月13日の夢の森幼稚園、2006年6月9日の横浜市民ギャラリーあざみ野の植樹の申し込者でもあり、長年にわたり、幼稚園の美術教育に携わっていらっしゃいます。

グリーンヒル幼稚園の卒園生26名と保護者たちは、八王子からバスに乗ってやってきました。また、多摩美術大学の学生さんたちも応援にかけつけてくれています。

子どもたちがバスで到着したとたん、それまで静かだった山あいにあるベックウェイハウスが一変し、にぎやかに植樹式がはじまりました。園長先生のお話、海老沼先生からのメッセージ

をみんなで縁側にすわり、聞きました。続いて、伊藤ちさとさんによる紙芝居「かきのきおやこ」の上演がありました。

紙芝居をみた後、園長先生と園児たちみんなで柿の木の名前を考え、「ちきゅう」くんと「みらい」ちゃんに決定。みんなで、お弁当、池谷先生のお母さんたちを中心とする地元のご婦人たちがつくってくれたすいとん、ピザの具材をそろえ、ピザ窯でピザを焼き続けてくれたベックウェイの管理人さんが作ったピザをいただきました。

午後は、矢野先生のワークショップ「柿の宝石をつくろう」が行われました。石膏を水でこねて、絵具で好きな色をつけて、丸くして固め、こすってピカピカにしていきます。子どもたちはふだんできないようなグチャグチャドロドロができて、本当に楽しそうでした。子どもたちは1人2個制作し、1個は持ち帰り、1個はベックウェイにおかれる「柿の宝石箱」に入れておくことにしました。

そして、いよいよ植樹です。午前中に子どもたちが決めた柿の木の名前が入った立て看板を多摩美術大学の学生さんが制作してくれて、柿の木の前に建て、みんなで記念撮影。

「柿の宝石箱」はベックウェイに保管され、子どもたちがベックウェイに遊びに来たときにいつでも見られるようになっています。



ジェロラモ・カルダノ高校

🇮🇹 イタリア

📍 ミラノ県・ミラノ市

🌱 2012年4月13日



ジェロラモ・カルダノ高校は、長年にわたり、レジスタンス運動教育協会 (IpR) やイタリア全国パルチザン協会 (A.N.P.I) が貢献してきた記憶を評価するプロジェクト、特に強制収容所に関するものやアウシュヴィッツ訪問を実施することで、これを支持してきました。

広島と長崎の悲劇についての学習を深め、知識とその出来ことに関する記憶によって、二度とこのようなことがおこらないようにしていきたいという思いから、今回、柿の木プロジェクトへ応募をしてくれました。

申し込みは、高校の先生、ダニエラ・カンピオッティ先生からでしたが、学校が一体となり、柿の木を迎え入れてくれました。

4月13日の植樹式では、植樹に先駆けて、講堂で、平和に関する全体会議が開催され、先生方の発表、高校生の代表7名による発表がありました。

ミラノかに日本総領事も参加してくださいました。会議の最初と最後には、ピアノとチェロの演奏がありました。

ワークショップは、会議と同時に実施されており、この地域のパルチザンの画家を招待し、高校生たちと一緒に大きな柿の木を描いた作品を壁に制作しました。大きな柿の木の実は、メッセージが描かれており、絵の真ん中の上には、大きな太陽の絵が掲げられています。

植樹は、校舎の前に小さな日本庭園風の庭をつくり、その中に柿の木が植樹されました。

柿の木の後ろには、1.2メートルほどの竹垣が立てられ、柿のまわりにも短い竹で囲いがつくってあります。海老沼正幸先生のスピーチの後、高校生の代表数名と、職員理代表数名がシャベルで土をかけました。

サンジョバニ公園

🇮🇹 イタリア



トリエステ県・トリエステ市



2012年4月14日

サンジョバンニ公園は、もともと屋敷だったところに、1908年、精神病院が建てられ、その後、市、州、大学による運営となって、一般市民に開かれた広場になった経緯があります。現在では、5000種もの多様なバラ園が作られ、子どもたちや老人たちの憩いの場となっています。

今回の植樹は、イタリアのガーデニアという雑誌の編集者をしているティッツィアーナ ボルタさんが、イタリア、ブリンディジ州、ヴァレ・ディトリア植物園とアフガニスタン、カブール国立美術館の2カ所とともに植樹申し込をしてくれました。

植樹式には近隣の人々30名ほどが集まり、ティッツィアーナさんのスピーチに続き、数名の方のスピーチの後、海老沼先生がスピーチしました。

その後、広場の中央にある白い石に囲まれた直径2メートルほどの花壇に被爆柿の木2世の柿の木は植樹されました。10名ほどの子どもたちは大きな植木鉢から土をとり、素手で柿の木に土をかけていきました。植樹の最後には、参加者が全員、柿の木を囲んで手をつなぎ、メッセージをのべました。柿の木ふるしきの贈呈も行われました。

女の子のスピーチの後、弦楽器やタンバリンの演奏にあわせ、ブラジルダンスが披露されました。風が強く、少し寒い植樹式でしたが、これから、市や県、学校などが協力して柿の木の世話をしてくれることとなります。



ソーニコの幼稚園

🇮🇹 イタリア

📍 ブレシア県・ソーニコ市

🌱 2012年4月16日

ソーニコ幼稚園の園庭の植樹は、この地に住む定年退職されたジャコモ・フェネッティ氏によって申し込みされました。ジャコモ・フェネッティ氏は、ここに将来住んでいくことになる子どもや若者たち一人一人に、「平和」という理念に関心を持ってほしいという願い、また、幼い頃から子どもたちにはこの大切な価値観にふれてもらいたいという願いを持っています。

彼は、授業の中で平和に関するテーマを取り入れてもらうため、地元の小学校の教師たちに連絡を取り、授業の中で、寛容、神を受け入れること、論争があっても対話を通して解決すること、各自の意見を平和的に交換することなどを取り入れてもらうようお願いしました。

植樹式は、最初幼稚園の教室で行われました。教室のまわりに幼稚園生と小学生たちがイスを並べて丸く座り、大人たちはその後ろに立っています。ジャコモさん、海老沼先生のスピー



チに続き、小学生たちが次々に詩の発表を行いました。7名の小学生は赤、黄、緑、水色、ピンク、紺色の大きな紙を持ち、裏にかえしながら、そこに描いてある絵とメッセージを発表しました。



手作りの虹色の旗を手に持ち、歌を歌い、真ん中では子どもたちが手をつないで、ダンスを披露しました。

その後、みんなで外に出て、幼稚園生、小学生を中心に園庭で植樹をしました。

ソーニコ幼稚園は、山の麓にありますが、町のメインストリートから近く、誰もが柿の木の成長を見守ることができ、小学生たちが図書館に行く際に、日々柿の木の水遣りをする事ができる場所です。柿の木は幼稚園及び小学校の生徒や教師たちはもちろんのこと町の人々にも手厚く世話をされることになります。

ロンカデッレ市内の緑地

 イタリア

 ブレシア県・ロンカデッレ市

 2012年4月17日

柿の木の植樹が行われたロンカデッレ市内の緑地は、市の中心の総合学校、ジャンニロダリー小学校とアントニオ・グラムシ中学校の間にあります。ロンカデッレ市の申し込により、植樹が実現しました。

植樹式は、両校の子たちが集まって行われ、子ども市長のあいさつの後、「歓喜の歌」の演奏が行われました。海老沼先生に続き、市長のスピーチがありました。

植樹は、小学生を中心に行われ、子どもたちは手に日本とイタリアの旗を掲げています。素手で柿の木へ土をかけた後、日本風におじぎをし

て、海老沼先生に「ありがとう」と日本語で感謝の思いを伝えていました。日本の国歌「君が代」が流れた後、柿ふろしきを贈呈、ここから小学生、中学生たちの詩の披露が続きました。さらに「さくら」の演奏、「イマジン」の歌もありました。

植樹式の最後には、旧ユーゴスラビア紛争がおこった現ボスニアの Zavidovici 市からの代表の方へ「被爆柿の木2世」の苗木、柿ふろしきの贈呈が行われました。Zavidovici 市は、ロンカデッレ市の姉妹都市であり、植樹の申し込の時から、この姉妹都市に柿の木を送ることが計画されていました。



ガヴァルド総合学校 ソプラポンテの小学校

 タリア

 プレシミア県・ガヴァルド市

 2012年4月18日

ソプラポンテの小学校は、ガヴァルド総合学校の1つで、植樹は、ニコリ エミリアさんによって、同じくブレシヤにあるガヴァルドの中学校とともに申し込みされました。ガヴァルドでは戦争の時の司令部が近年発見され、市民の平和への思いが強くなっています。柿の木の植樹を通して、生徒たちに平和や民族間の友愛を教えたいという先生方の強い思いがありました。



植樹式は、小学校の校舎の前の広場で行われ、幼稚園生たちも招待されました。ワークショップは、小学生の高学年によるリコーダーの演奏と歌が中心となり、演奏と演奏の間に「平和」の詩の朗読がありました。曲は、りんやドラをつかったアジア風のものや、軽快な曲も多く、イマジンの曲が流れる中、行われた子どもたちのイマジンの詩の朗読がとても印象的でした。ワークショップの最後には「歓喜の歌」の演奏がありました。低学年の子ども

たちは、イタリアと日本の旗をふり、音楽のリズムをとってくれました。

植樹は、四角に囲われた花壇の中に行われ、大人たちの手に植樹、整備され、柿の木の植樹を祝って、メッセージのついた色とりどりの風船が空にとばされました。最後にみんなで記念撮影を行いました。



ガヴァルド総合学校 ガヴァルドの中学校

🇮🇹 イタリア

📍 プレシミア県・ガヴァルド市

🌱 2012年4月18日



ガヴァルド総合学校の植樹は、ニコリ・エミリアさんによって、同じくブレシヤにあるソプラポンテの小学校とともに申し込みされました。ガヴァルドでは戦争の時の司令部が近年発見され、市民の平和への思いが強くなっています。柿の木の植樹を通して、生徒たちに平和や民族間の友愛を教えたいという先生方の強い思いがありました。

植樹式は、ガヴァルドの中学校の前の通りを通行止めにして行われ、300人以上の子どもたちが参加しました。式典では、小学生のリコーダーによる「歓喜の歌」の演奏の後、市長のスピーチがありました。また、小学生4名が順番に平和のついての詩を朗読しました。

その後、再び小学生によるリコーダーの演奏と歌があり、代表者のスピーチ、中学生の詩の朗

読と続きました。「被爆柿の木2世」の植樹は、大人たちだけ移動して実施され、子どもたちは中学校の柵の向こうで見守っています。メッセージをつけた色とりどりの風船を空にとばして、植樹式をしめくくりました。

その後、中学生たちは校舎に戻り、大きな教室で、生徒の代表2名が制作したコマドリフィルムをみんなで鑑賞しました。フィルムは、一人一人の平和への思いが地球の平和を確実なものにしていくという「平和」「反戦」のメッセージがみんなに伝えることができるような素晴らしい作品でした。

学校内には、原爆の資料展示が行われ、子どもたちの作品もたくさん展示されていて、事前にしっかりと原爆について勉強していました。

ヴィッラヌオーヴァ・スル・ クリージ市内小学校

 イタリア

 プレシミア県・ヴァリオテルメ市

 2012年4月19日

ヴィッラヌオーヴァ・スル・クリージ市の自治体は、ブレーシャの「The Association Tavolo della Pace」という組織から柿の木プロジェクトを紹介され、申し込をしてきました。自治体では、植樹に先駆け、小学校や、中学校で柿の木プロジェクトの説明を行い、生徒たちに作品を制作してもらいました。

3歳から15歳までの子どもたちが通う総合学校の小学校で植樹式は開催されました。

植樹式には、市長、子ども市長をはじめ、多くの子どもたちが参加してくれました。日本の国旗が掲げられ、子どもたちが詩を披露しました。柿の木には子どもたちの代表が土をかけました。



コストリオ市内小学校

 イタリア

 ブレシア県・ビラ・カルチナ市

 2012年4月19日

コストリオ総合学校から申し込みがあり、コストリオ市内の小学校に柿の木が植樹されました。

市長も参加する中、大勢の子どもたちが集まりました。

柿の木を植樹した後は、体育館にみんな集まりました。体育館の天井からは、折り鶴が下げられて、ダンスのパフォーマンスが披露されました。



フラザマーケット

 イタリア

 レシア県・オーメ市

 2012年4月20日

オーメの植樹を申し込してくれたのは、オーメ植物園の管理者で、植物学者のアントニオ・デ・マトラさんです。柿の木は町の中心に位置するメルカト広場に植樹されました。メルカト広場は、フラ・トマツソ・ボンゲッティ総合学校に隣接しています。



植樹式には、総合学校からたくさんのおともたち、市長が参加してくれました。植樹後に柿の木のまわりを美しい花で飾りました。



植樹後は体育館に移動し、そこで空手、ゆかたをきた子どもたちの踊りなど様々なワークショップが行われました。ここで、市長に柿の木ふろしきが贈呈されました。



M. カリーニ小学校



イタリア



ブレシア県・ブレシア市



2012年4月20日



M. カリーニ小学校は、センター3総合学校の1つで、この子どもたちは、何年もの間、創作ダンスの活動を行っています。この小学校の先生、アウロラさんの平和な世界への希望の種をまいていくことによって蘇生は可能であるという思いから、申し込みをしてくれました。



子どもたちは最初に図書室に集まり、ポットに植えてある柿の木を真ん中におき、柿の木についての話を聞きました。

その後、外に出て、校舎からよく見える少し斜面になっている場所に柿の木を植樹しました。



植樹のあとに、子どもたちに柿の木ふろしきが贈呈され、海老沼先生と子どもたちが握手をしていました。

サンジローラモファームハウス

 イタリア

 マントヴァ県・マントヴァ市

 2012年4月21日

マントバは、北イタリアで最も美しい都市の一つです。

植樹を申し込んでくれたのは、G. Folonari文化研究所のアグスティーノ・マントバニさんです。彼は、ブレージャで広がっている柿の木プロジェクトをマントバでも広げたいと思いました。

柿の木は、15世紀に建てられた旧修道院で、現在は世界各国からの観光客や市内の学校遠足で子どもたちが訪れるアグリトゥリズモの緑地に植樹されました。

アグリトゥリズモはマントバの中心から2キロほどのところに位置しており、ミンチョ自然公園内の一部でもあり、たくさんの種類の木が植えられています。

植樹式は、近くの子どもたちが参加して行われました。



タヴァルヌツェ 平和の家

🇮🇹 イタリア

📍 フィレンツェ県・タヴァルヌツェ市

🌱 2012年4月23日



Pax Christi (パックス・クリスティ)は、非営利団体(NPO)、かつ非政府組織(NGO)で、国際的なカトリック平和活動を行っています。その活動は、人権、人間の安全保障、軍備縮小、非軍事化、公正な世界秩序、宗教、暴力的な紛争についてと多岐にわたり、さらにいくつかの平和活動やキャンペーンも行っており、特に子どもたちや若者と協力して活動しています。

今回の植樹は、パックス・クリスティより植樹申し込があり、彼らが所有している「平和の家」の庭で行われました。

「平和の家」は、フィレンツェ近くの丘にあり、ここでは、平和と非暴力の強化週間や会議、子どもたちのためのワークショップなど、いくつかのイベントが行われています。

植樹式には近くの子どもたち、大人たちが招待されました。

最初に屋内で、プロジェクトの説明、海老沼先生のスピーチと続き、フルーツとバイオリンの演奏が行われました。

その後、全員で外に出て、柿の木を植樹しました。外はオリーブ畑の広がる広大な土地で、柿の木の前には木製の立て看板が立てられています。

その後、再び、屋内で、お茶会、フルーツの演奏会と続けました。



ヴァレ・ディトリア植物園



イタリア



ブリンディジ県・チステルニーノ市



2012年4月24日



ヴァレ・ディトリア植物温室園のあるチステルニーノはプーリアの中心に位置し、他の二つの港町（ターラントとブリンディシ）の中間に位置します。ヴァレ・ディトリア植物温室園は、2004年パオロ・ベッローニ氏によって作られた公園で、生物の多様性を豊富に示唆してくれる公園です。そのためプーリアの学校の生徒たちが訪れては研究を続けています。宗教的意味合いから平和のシンボルの木とされているイチジクの木が300種類も植えられ管理されています。今回の植樹は、イタリアのガーデニアという雑誌の編集者をしているティツィアーナ ボルタさんが、アフガニスタン、カブール国立美術館、イタリア、トリエステのサンジョバーニ広場の2カ所とともに植樹申し込をしてくれました。

植樹式の日、子どもたちは1台のスクールバスを何度も学校と植物園を往復させて、やってきました。

広大な敷地の中に直径20メートルぐらいの花壇が作られ、花壇にはラベンダーがたくさん植え

られ、迷路のような道がつけられています。

人々が集まってくるときに、子どもたちの吹奏楽部の演奏によって出迎えられました。人々は赤いテープで囲まれた花壇の外側に集まり、プロジェクトについての説明、海老沼先生からのメッセージを聞きました。さらに花壇の真ん中に立つ3人の女の子による詩の朗読がありました。

その後子どもたちは、大人たちに先導され、迷路のようになった花壇の中の道を花壇の中心の柿の木の植樹場所まで歩いてきました。そこで、海老沼先生と柿の木を歓迎して、子どもたちから、日本語で「夕焼けこやけ」とイタリア語の歌、女性による祈りのようなパフォーマンス



が行われました。子どもたちは二人1組で、柿の木に土をかけていき、最後に柿色の風船を大空高くとばしました。

畑の外側には、木の形をしたメッセージボードが立てられ、子どもたちが柿の実の形の紙にメッセージを書いて、貼っていきました。

2018年にイタリアの方たち26人が来日しました。その時にティツィアーノさんから柿の木は順調に成長し、実をつけたという報告と写真が届きました。

ミラベッラ・インバッカリの小学校

 イタリア

 カターニア県・ミラベッラ・インバッカリ市

 2012年4月26日

シチリアの植樹を申し込んでくれたロサリオ・スコロ氏は、1920年に設立され、世界最大の国際ボランティア機関のひとつであるSCI (Service Civil International) のカターニア州地域全体の責任者をしており、異なる社会、文化、国家間の人々の偏見や障壁を打ち破り、平和の文化を推進しています。2011年の春には原爆の写真展のオーガナイズしました。

植樹式の当日、ミラベッラ・インバッカリ市庁舎前の広場に近くの小学校、ミラベッラのエドモンドデアミーチス中学校の子どもたちが集まりました。

壁には、大きな日本とイタリアの国旗が貼られています。スピーチが数名行われ、中学生たちによるトランペット、クラリネットで日本の国歌「君が代」とイタリア国歌の演奏に続き、柿

の木の植樹が行われました。

柿の木の植樹後に子どもたちは柿の木のまわりに集まりました。小学生、中学生による詩の朗読が次から次へと続きました。

最後には、男女の二人の歌手により、素敵な歌が披露されました。

植樹式の後には、30名ほどの大人が集まり、屋内で上映会が行われ、「ヒロシマ」「母の祈り」「柿の木プロジェクト」のDVDが上映されました。

その後、引き続き、海老沼先生のレクチャーも行われ、会場からはたくさんの質疑応答がありました。最後にアーティストから海老沼先生に絵画のプレゼントがありました。



カブール国立美術館「カブール平和と希望の庭」

 アフガニスタン

 カブール

 2012年6月9日

「カブール平和と希望の庭」は、グローバル・ホープ・ネットワーク・インターナショナルとアフガニスタン文化省が協力して実現されました。カブール国立美術館の中に位置しています。庭園とその施設は、芸術分野に美とインスピレーションをもたらし、平和と希望に寄与することを目的に計画、完成されました。庭園は「パラダイス」や社会の中にしばしば存在する抑圧的で敵対的な要素から避難するためのオアシスのような感じを与えるものです。ここは内省、創造、意見交換、そして芸術分野の発展と健全さのための刺激の場となるべきものです。この庭園が多くのアフガニスタン人にとって、喜び、平和、希望の源となることが望まれています。

カブールの植樹は、イタリアのガーデニアという雑誌の編集者をしているティツィアーナボルタさんが、イタリア、トリエステ、サンジョバーニ広場とイタリア、ブリンディジ州、ヴァレ・ディトリア植物園の2カ所とともに植樹申し込をしてくれました。柿の木は日本からイタリアに送られ、イタリアからアフガニスタンへ輸送されました。

6月9日の植樹式に先駆け、4月15日に海老沼先生の参加の下、イタリアのカステルナートでカブールへの苗木の贈呈式が開催されました。大きな建物に囲まれた石畳の広場で、ティツィアーナさん、海老沼先生のスピーチも行われました。

また、場所をかえ、屋内で、この日の朝9時からカステルナートで実施されたフランチャコルタ平和行進の報告も行われました。ここでは、ギターの演奏と歌があり、人々に黄色と白のテープがまわされて、そこに人々はメッセージを書

き込んでいききました。ティツィアーナさんのスピーチ、カステルナート市長の挨拶もありました。

イタリアからカブールに送られた苗木は無事にアフガニスタンに到着し、6月9日、カブール国立

美術館の敷地内にある「平和と希望の庭」での植樹式は行われました。

敷地のまわりには、銃を持った兵士たち数名が植樹式を見守ってくれていました。塀にかこまれたこの庭園には、たくさんのバラが咲き、噴水もあります。柿の木はレンガブロックで囲まれた花壇に植樹されました。代表者のスピーチの後、ギターの演奏をみんなで楽しみました。庭園内の建物の壁には、柿の木ふろしきがかけてあり、リボンで飾られています。KAKI TREE PROJECTとデコレーションされた素敵なケーキも用意され、植樹式の後、参加者にふるまわれました。

この長崎の「被爆柿の木2世」がアフガニスタンの人々の心の灯となってくれることを、私達、柿の木プロジェクトのメンバーは遠く日本から祈り続けています。この植樹に尽力して下さったティツィアーナさんに心から深く敬意を表し、感謝します。

